

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立致遠館中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標に基づいた本年度重点目標は概ね達成できたが、基礎学力及び応用力の向上と業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減についてはさらに推進が必要である。 ・次年度に向けて、本年度の取組をさらに深化させ「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開し、自発的学習習慣の定着や主体的な学びを重視した授業を構築する。 ・本年度の課題を精査し、各種業務をさらに精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を今後も推進する。
2 学校教育目標	未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。
3 本年度の 重点目標	①「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」いわゆる知・徳・体の調和のとれた人材の育成 ②「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の醸成 ③生徒が主体的に設定した進路目標の実現 ④教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくり

達成度（評価）

- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

重点取組内容・成果指標				5 最終評価	
(1)共通評価項目					
重点取組				最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業を受けて「なるほど、わかった」と肯定的な回答した生徒を95%以上 ○授業をとおして「学力(技能)を向上させた」と肯定的な回答した生徒を95%以上	・少人数授業やTTIによる個に応じた指導の充実 ・復習課題や確認テストを活用した基礎学力の定着 ・定期考査や模試で学習定着度を把握し、実態に応じた適切な指導 ・補充学習や発展的学習の積極的な実施 ・年2回の授業アンケートで生徒学習意識の把握・分析	A	・「授業を受けて、なるほど、わかった」と回答した生徒、そう思う(67%)、ややそう思う(31%)。 ・「学力(技能)を向上させた」と回答した生徒、そう思う(65%)、ややそう思う(32%)。 ・「少人数授業やTTIを実施することにより、個に応じた指導が可能となり、補充学習や発展的学習も実施できている。」
	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○平日2時間、休日4時間で週18時間以上となる家庭学習時間の確保	・家庭学習状況を把握した適切な指導 ・学年と教科が連携して計画的な課題の質量を生徒に提示 ・C-timeを活用した自発的学習の定着	B	・「家庭学習時間(日平均3h、週21h以上)を確保できている」と回答した生徒、そう思う(12%)、ややそう思う(29%)。今後も課題等を工夫することで、家庭学習時間の確保を行っていく必要がある ・「学校は一人ひとりの生徒に応じた進路指導ができている」と回答した生徒、そう思う(48%)、ややそう思う(44%)と高い結果だった。生徒の実態に応じた進路指導を行うことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を80%以上 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上 ○豊かな心の醸成につながる講演会を年1回以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・図書室利用促進のため図書委員会の活動で読書の啓発活動 ・学年会・生徒指導部会・教育相談部会の定期的開催と情報共有	A	・「道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は97%であり、意欲的に学習に取り組んだ。」 ・各学年の道徳や生徒会活動で生徒主体の人権啓発活動を実施し、人権意識の向上に貢献した。 ・図書室の貸出冊数は一人25.6冊であった。昨年度より微増した。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていいると回答した教員95%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図る	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的いじめアンケート実施で実態把握と早期対応 ・問題発生時の敏速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底	A	・今年度のいじめ認知件数は16件。未解決の事案もあり、いじめの実態把握や対応について継続して対応していく。 ・県標準調査(年2回)、生活アンケート(毎週)を実施して生徒や保護者からの相談把握後、速やかに担任・学年団、関係分掌が連携した情報共有を行い、的確に対応できた。必要に応じて、関係機関と連携を図る必要な支援に結び付けた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員は100%。 ・「いじめは絶対にしない・させない」という意識をもった行動ができている」と回答した生徒、そう思う(85%)、ややそう思う(15%) ・毎月教育相談部会で生徒の状況を共有し必要であればSCや病院、NPOなどの外部機関とも連携しチームとして組織的に対応することができた。
	●生徒が夢や希望を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒90%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりの校内研修等の実施 ・各種体験活動で、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む ・教育活動全体で、生徒が自己有用感を育む取組の実践	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒、そう思う(53%)、ややそう思う(38%) ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒71%。 ・(中1)新人生涯学習研修では、学習活動の見通しや仲間づくりの機会となった。また、福祉体験や職業人講話では職業への視野を広げ、体験での学びを活かせる指導指導をした。(中2)キャリア教育講演会で企業との講話、大学訪問、留学生との交流等で将来の夢や目標を持つ指導を行った。(中3)個別面談を随時行い、将来の夢を具体化できるように支援した。
	○人権・同和教育の推進	○「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒を95%以上 ○新たな人権課題を把握し、解決しようとする姿勢を養う	・人権意識に関するアンケートの実施 ・人権・同和教育に関する職員研修の実施 ○各教科、特別活動での人権学習の充実による生徒の人権意識の向上	A	・「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒を97%。 ・「人権・同和教育に対して問題意識を持ち、主体的に理解使用としている」と回答した生徒95% ・教職員は100%であった。 ・生徒・教職員対象の人権・同和教育講演会を実施して社会にあるジェンダーギャップを認識し、多様な性に基づいたパートナーシップについて理解を深めた。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を95%以上	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・朝食喫食率調査やミルク給食等をおとしたの食育教育の推進 ・致遠館手帳を活用した規則正しい生活習慣の定着	A	・「毎日、朝食を摂っている」と回答した生徒は97%。 ・「健康に良い食事をしている」と回答した生徒は93%。 ・「実践リーフレット」や「保健だより」を活用し、睡眠・食事の重要性を伝えた。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%	・部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進 ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す ・「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日設定の徹底	A	・部活動(社会体育を含む)への加入率は92%。 ・「部活動は計画的に休養日が設定される」と回答した生徒97%。 ・「部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の実施率は100%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・業務記録を毎週確認して職員の時間外在校等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定	A	・「学校閉庁日設定を11日間、夏季休業中の退勤時間を18時30分としたことは概ね遵守することができた。」 ・時間外在校等時間は月平均31時間57分で上限45時間を下回った。上限超過職員数は月平均0名、年間を通過し80時間超は0名。 ・在校等勤務時間上限超過の職員が一部いたが、産業医の面談の対象者はなし。今後も健康観察と時間縮減に向けた動向を行っている。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日のを設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会の充実	A	・「働きやすい職場である」と回答した職員は87%。 ・年度当初にハラスメント研修を実施し、職員の相談体制について周知を図った。 ・毎月の職員会議に合わせてゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を促した。 ・衛生委員会を毎月開催し、産業医の指導・助言を得ながら、働きやすい職場づくりについて情報交換を行っている。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成 ○中高6年間を見通したより良い教育課程の編成を目指す	・キャリア教育会議や中学校連絡会で、適切な教育課程の見直しと検討の実施	A	・中学校連絡会を毎月実施し、全国学力・学習状況調査の結果の分析など、その都度情報の共有、課題の検討・改善を行った。
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに90%以上	・学校評価アンケート(年1回)の実施 ・キャリア教育会議での中高職員の共通理解と効果的なキャリア教育事業の運営 ・ピックアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた指導	A	・「中高一貫校の特色を感じる」と回答した生徒は92%だった。 ・「生徒に応じた進路指導をしている」と回答した生徒92で、個に応じた指導ができている。 ・キャリア教育では、年に応じた取り組みを改善し、講演会や職業人と語る会などを実施し、進路意識の向上につながった。
◎志を高める教育	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を80%以上	・総合的な学習の時間や学校行事で郷土に関する学習の実施 ・「エリアスタディ」やボランティア活動で郷土のことを知る機会の設定	A	・「総合的な学習時間や学校行事等で、郷土に関する学習を実施した。また、エリアスタディ(中1・中2)では、郷土のことを知る機会を設けた。その結果、「ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じている」と回答した生徒85%と高かった。今後も指導を継続していきたい。」 ・「本校を小中学生に勧めることができる」と回答した生徒87%、職員100%と高結果。
	○SSH事業の活用	○「トライアル」「Jr.課題研究」「探究基礎」をとおして、実験や調査等での試行錯誤をともに教職員を作り、主体的な学びに活用した経験のある生徒を80%以上	・学校設定科目で「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発	A	・「探究基礎」では、ペーパー・ジャイロ作成などのマニファクチャリングメソッド(現在までに「アーク」を通して、試行錯誤から学ぶ力や協働的に学ぶ姿勢を育成した。 ・「Jr.課題研究(サイエンス)」では、pHによる苔の生育変化(生物)など、生徒の興味・関心に合わせてテーマで活動を行った。 ・多角的な取り組みの成果として、「主体的に課題研究・探究活動に取り組むことができた」と回答した生徒は95%であった。
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進	○意欲的・主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員を95%以上	・毎月1回公開授業の実施で指導力の向上 ・ICTを活用した授業の実施 ・生徒による授業評価の結果に基づいた授業改善	A	・「意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めることができた」と回答した職員、できた(52%)、概ねできている(48%)。 ・各教科での公開授業(月12回、計21回)をとおして指導力向上を図った。 ・年2回の学習状況調査結果を各授業者に配付して授業改善を促した。
	○ICT活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を90%以上 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上	・ICT活用能力向上のための効果的指導法の追求 ・「エリアスタディ」や「Jr.課題研究」での情報収集力・分析力・プレゼン力の育成 ・英検等の資格取得や部活動でのICT活用推進	A	・「ICTを活用して、自らの考えをまとめ発表をすることができる」と回答した生徒91%。 ・「ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かしている」と回答した生徒89%。 ・「ICT活用教育に取り組むことができた」と回答した職員、86%。 ・「エリアスタディ」「Jr.課題研究」では、全生徒が情報収集、プレゼン作成のためにICT機器を活用し、ほぼすべての生徒が有用であると回答した。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育					
5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標に基づいた本年度重点目標は概ね達成できたが、基礎学力及び応用力の向上と業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減についてはさらに推進が必要である。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開し、自発的学習習慣の定着や主体的な学びを重視した授業を構築していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務をさらに精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を今後も推進する。				